

UR 都市機構の業務フィールド

UR 都市機構は、半世紀以上にわたり、「人が輝く」まち・住まいづくりを目指し、さまざまな取組を実践してきました。「都市再生」、「住環境」、「郊外環境」、「災害復興」の4つのフィールドで、より美しく、安全で快適な都市を目指して、都市に活力を取り戻し、人々が快適に暮らせる居住環境づくりに力を入れています。

都市再生フィールド

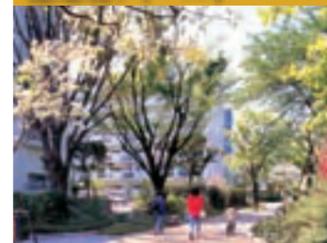


晴海アイランド・トリトンスクエア（東京都中央区）

民間事業者や地方公共団体の皆さまと協力し、都市再生を推進します。

大都市や地方都市のさらなる活性化のために、構想企画、諸条件整備等のコーディネート業務や、パートナーとして事業に参画し、民間事業者や地方公共団体の皆さまとの適切な役割分担のもと、より一層都市再生を推進していきます。

住環境フィールド



経堂赤堤通り（東京都世田谷区）

ストックの活用と再生。そして適切な維持管理を実施します。

全国に約76万戸あるUR賃貸住宅ストックの地域及び団地ごとの特性に応じた再生・再編を実施します。また、暮らしやすさへの配慮や子育て環境の整備等を行い、安心して暮らせるきめ細かなニーズに応える住宅管理を推進します。

郊外環境フィールド



港北ニュータウン（神奈川県横浜市）

豊かな自然環境と安心・快適な「新・郊外居住」を推進しています。

これまでに約300地区のニュータウンの整備を手がけ、国民の居住水準の向上に貢献してきました。「安全・安心」、「環境共生」、「コミュニティ支援」等をテーマに、地域の特性を活かした魅力ある郊外や地方居住の実現を図り（「新・郊外居住」）、事業の早期完了を目指します。

災害復興フィールド



ACTA 西宮（兵庫県西宮市）

都市の防災機能を強化し、被災地の復興をいち早く支援します。

1995(平成7)年の阪神・淡路大震災では、被災された方々への復興支援に取り組みました。これを契機に都市の防災性のさらなる向上をめざし、地方公共団体の皆さまとの適切な連携のもと、災害に強いまちづくりを推進しています。

ごあいさつ

昨年から京都議定書の第一約束期間（2008～2012年）に入り、我が国は京都議定書目標達成計画において地球温暖化の原因となる温室効果ガスの排出削減に取り組んでいます。また、本年6月、政府は2020年の温室効果ガスの削減目標を2005年比で15%削減とすることを表明しました。排出削減は困難を伴いますが、持続的発展が可能な社会の実現のためには不可欠です。特に、エネルギー消費の多い都市部では低炭素型の都市づくりに向けた動きが活発になっています。

UR都市機構は、「まち・住まいづくり」を担う公的機関として、日本住宅公団設立以来半世紀以上にわたり、安全・安心で快適な美しいまちづくりを進めるとともに、自然環境の保全・再生、資源やエネルギーの有効利用などに先進的に取り組んできました。これまでの環境にやさしいまち・住まいづくりの成果を活かしながら、低炭素社会の実現に向けた取組をより一層進めてまいります。

本報告書は、特集のテーマを「UR都市機構が目指す低炭素社会」とし、昨年公表したUR都市機構地球温暖化対策実行計画「UR-ecoプラン2008」等について、計画段階から事業段階までCO₂削減に関する取組状況等を取りまとめています。また、年次報告では、UR都市機構が平成20年度に実施したまち・住まいづくりにおける環境配慮の取組全般について紹介しています。

UR都市機構は、地球にやさしいまちづくり、人にやさしい住まいづくりに取り組み、快適で美しい低炭素社会をプロデュースしていきたいと考えています。今後とも皆様からのご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。



独立行政法人 都市再生機構
理事長 小川 忠男

はじめに

機構事業と環境とのかかわり

UR 都市機構は、これまで半世紀にわたって、身近な自然とのふれあい、資源やエネルギーの有効利用、安全・安心で快適な暮らしなどにおいて、様々な技術開発を行い、魅力的なまちや住まいづくりを進めてきました。身近な生活空間や都市空間の環境づくりを進めることは、わが国の良好な環境の形成と、さらには地球環境問題の改善にも寄与するものと考えています。（詳細は p.56「UR 都市機構の環境配慮 50 年の歩み」）



環境配慮方針

UR 都市機構は、まちや住まいづくりを進めていくにあたり、環境について配慮すべき視点を取りまとめ、「環境配慮方針」として宣言しました。



1. 環境にやさしいまちや住まいをつくれます

- ① 都市の自然環境の保全・再生に努めます
- ② まちや住まいの省エネルギー化を進めます
- ③ 資源の有効利用と廃棄物の削減に努めます
- ④ まちや住まいの安全・安心と快適性を確保します
- ⑤ 皆様と一緒に環境に配慮したライフスタイルを考えます

2. 環境に配慮して事業を進めます

- ① 環境負荷の少ない事業執行に努めます
- ② 環境に関して皆様とコミュニケーションを深めます